

第21回

小麦畑を眺め 草をはむ牛を眺める 美味しい十勝

先日、仕事で十勝に出かけた際、十勝在住の友人が車であちらこちらへ連れて行ってくれた。音更から土幌、上土幌へと寄り道ツアーだ。移動しながら、十勝は本当に広いなあとと思った。

まずは音更の畑の中にポツンとあるパン屋さんへ。ドアを開けるとパンの焼ける香ばしい匂いが漂い、棚にはしっかり焼き締まったパンが並んでいる。素朴だけれど、噛むごとに小麦の深い味わい。行くたびに好きになる十勝のようなパンだった。

次に目指したのは新しくなった道の駅「ピア21しほろ」。ここのレストランは土幌牛の本格的ステーキから丼ものまで幅広いメニューがある。お昼をいただいたがとてもおいしい。どおりでたくさんのお客で賑わっているはずだ。ここを運営しているのは地元の女性農家さん。レストランやカフェのほか、土幌産の野菜や加工品などがセンスよくギュッと詰め込まれている。地元への愛情を感じる温かさが感じられる店内だ。思わずお土産の買い物に力が入ってしまった。

そして、ミルクジャムで有名なしんむら牧場へ。広い牧場に放牧された乳牛が草をはみ、のんびりと生活している。眺めているとゲートが開き、お乳を絞るために自分たちで1列になって進んでいく。そんな風景に美味しい牛乳の理由を感じる。併設のカフェでおすすめのミルクティーをいただく。さらっとしたほのかな甘みの牛乳は紅茶によく合う。

それ以外にも寄り道して、帰りは常広駅そばのヌブカで「旅の始まり」という名のビールを旅の終わりに飲んだ。十勝にはどこに行っても美味しいものがいっぱい。この美味しさを育む十勝の風景が大好きだ。

さて、このコロナ禍、出かける時は十分な予防を。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ?」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ? くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにここと」。

